

苫小牧市公共交通協議会

平成30年12月19日設置



概要

苫小牧市は、北海道の胆振東部地方、札幌市から南に約50kmに位置しており、人口が約16万4千人と道内第4位の人口規模を有している。市内の交通状況としては、国際拠点港湾である苫小牧港が立地しているほか、北海道の空の玄関である新千歳空港までは約40分程度と至近にある。道路については、市内に高速道路のICが6か所立地し、札幌、室蘭、日高方面に高規格道路も含めた高速道路網を形成しており、それを補完する形で、国道、道道などによる交通ネットワークが形成されているなど、移動及び物流の拠点都市としての性格を有している。

○地域公共交通の現況

- ・JR室蘭線、千歳線、日高線
(錦岡駅、糸井駅、青葉駅、苫小牧駅、沼ノ端駅、植苗駅、勇払駅)
- ・道南バス株式会社(市内18路線、都市間2路線)
- ・あつまバス株式会社(都市間3路線)
- ・北海道中央バス株式会社(都市間1路線)

○地域公共交通の課題

- ・人口減少等に比例した路線バス利用者の減少。
- ・運行経費(燃料油脂類等)の高騰に伴う赤字路線の増加。
- ・赤字路線増加と運転手不足に伴う減便及び利便性の低下。
- ・JR及び路線バスダイヤの親和性不足(乗り継ぎが不便)。

○調査の主な内容

- ・協議会の開催
- ・苫小牧市地域公共交通計画改訂業務の策定
- ・市内移動不便地域におけるAIデマンド交通の導入検討

○地域公共交通活性化協議会開催状況

- ▶令和7年8月19日〔第3回協議会〕
 - ・苫小牧市地域公共交通計画改訂業務について(概要等説明、意見募集)
 - ・勇払AIデマンドタクシーの実証運行业務について(概要等説明、意見募集)
- ▶令和7年11月17日〔第6回協議会〕
 - ・苫小牧市地域公共交通計画改訂業務について(進捗等説明、意見募集)
- ▶令和7年11月21日〔第7回協議会:書面会議〕
 - ・苫小牧市地域公共交通計画改訂業務について(議会提出、パブコメの実施合議)



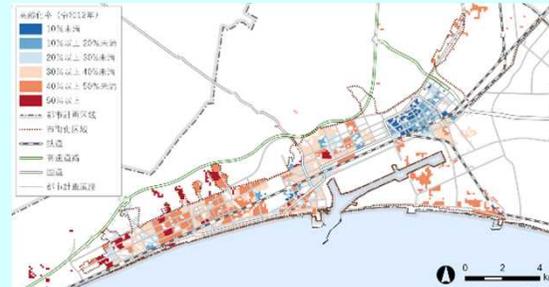
苫小牧市公共交通協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

<調査内容及び結果>

1.地域現況調査 ※代表的なものを抜粋して掲載

(1)地域別人口推移と高齢化率



令和12年 高齢化率の予測

<結果>

- ▶ 当市人口は、R2年度の約17万人からR7年度11月末で約16.4万人まで減少(▲0.6万人)。
- ▶ 市中央部の人口減少率が特に高い一方、東部東では唯一2.1%の増加。
- ▶ 加えて、近隣で大規模半導体工場や、市内で大規模データセンター整備が進められているほか、北海道栄高校の移転や苫小牧駅周辺の再開発の検討も進められている。

⇒人口分布の変化により、中央部と東西を結ぶ公共交通の新たな利用ニーズが発生する可能性。

(2)バス停・鉄道駅の将来人口カバーエリアとカバー率



バス停・鉄道駅の将来人口カバーエリアとカバー率



基幹的なバス停・鉄道駅の将来人口カバーエリアとカバー率

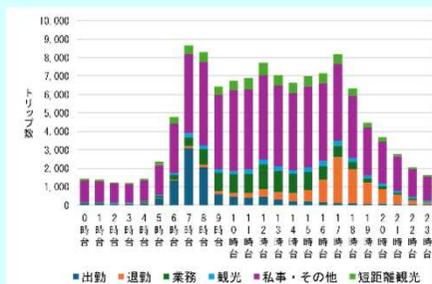
<結果>

- ▶ 駅周辺や沼ノ端駅北側に人口集積が予測。
 - ▶ バス停・駅徒歩圏の人口カバー率は約9割だが、生活利用路線に限定した場合は約4割まで低下。
- ⇒ 高齢化が進行するなか、市民生活維持のため、移動不便地域における新交通モードの検討が必要。

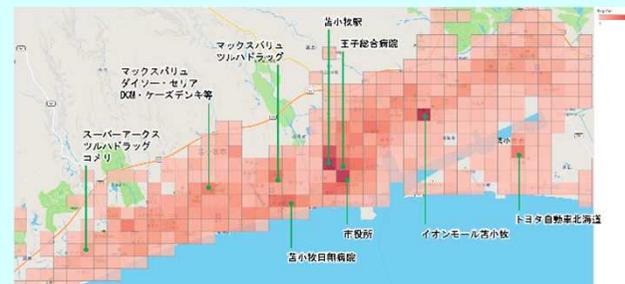
(3)移動実態(通勤・通学流動、手段、発着地、時間帯別etc)



苫小牧市からの通学先



時間帯別のトリップ数(平日データ)



移動の多い発着地(着地)

<結果>

- ▶ 通勤・通学流動は7~8割が市内移動。主に朝・昼・夕の3つのピークが存在。
- ▶ 移動需要(発着地)は東西軸上に所在する主要施設(市役所、病院等)への移動が多く、路線バスが経路を概ねカバーしている。

⇒ 学生等、公共交通機関に頼る必要性が高い市民に対して広域的な交通ネットワークの整備が必要。

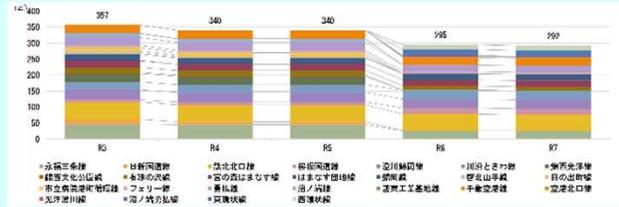
苫小牧市公共交通協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

<調査内容及び結果>

2.公共交通現況調査

(1)市内路線バスに関する分析(利用者数、運転手数、運行本数等の推移)



苫小牧市内のバス運転手数及び平均年齢

<結果1>

- ▶ 利用者数について、新型コロナウイルス感染症の収束に伴い、回復基調にあるものの、コロナ禍前の水準には戻っていない。
 - ▶ 車両数及び車両1台あたりの乗車人員も減少。
 - ▶ バス運転手は、R2年96人からR7年の78人まで減少しており、平均年齢は50代半ばとベテラン層が占めている状況。
- ⇒ 利用者数の減少に伴う輸送効率の低下が発現。今後加速する運転手の退職を見据え、人材確保が急務。

<結果2>

- ▶ 令和7年の平日運行本数は292本/日で、令和3年の357本/日から約2割減少。
- ⇒ 運行本数の減少に伴う利便性の低下から利用者数の減少という負のスパイラルが懸念。

3.交通ニーズ把握調査

◆市民、高校生アンケート調査



市民アンケート調査(依頼文)

<市民アンケート>
無作為抽出した1,500人に送付。
⇒497票回収(回収率33%)
<高校生アンケート>
苫小牧南高校、苫小牧総合経済高校の全校生徒を対象に実施。
⇒275票回収(回収率34%)

<結果>

- ▶ 日常的に公共交通を利用しない理由は、「自家用車を運転して移動できる」が59%の最多回答。
- ▶ 公共交通の維持に向けた対策として、「運賃値上げと乗換えの発生」と答えた割合が37%と最も多く、次いで「利用者の少ない路線の統廃合や廃止」と答えた割合が27%存在した。
- ▶ 高校生からは、「混雑していて乗れない」、「便数を増やしてほしい」という意見が複数あったほか、キャッシュレス決済導入や通学定期割引率の向上を求める意見も見られた。

4.勇払AIオンデマンドタクシー実証運行

◆移動不便地域におけるデマンド交通の導入検討

<結果>

- ▶ 利用者登録実績は、90件。
 - ▶ 運行期間中(平日18日間)に延べ142人が利用。
 - ▶ 沼ノ端地域に設置した乗降スポット(病院や商業施設等の合計17先)で利用者ニーズを概ね充足。
 - ▶ 協力事業者(乗降スポット先)も、全先から負担感がない旨を回答いただいております、実装時の協力を得られるものと思料。
 - ▶ 運行システム「MITT」について、操作性が良好であった一方、音声AIの予約受付が十分に機能しなかったため、改善の余地あり。
- ⇒ 地域交通の手段として有効性を検証し、市内移動不便地域に対する横展開を検討する必要。

勇払AIオンデマンドタクシー(通称:あいとまタクシー)の周知用パンフレット

苫小牧市公共交通協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

<基本理念>

「利便性と公平性のバランスを考慮した、みんなで守る公共交通」

公共交通は、『市民の日常生活移動を支える基本的な社会インフラ』であり、単に利便性や効率性の一方のみを追求するのではなく、両者のバランスを考慮しながら維持していくことが重要である。また、行政や交通事業者だけではなく、地域が一体となって支えていくべきものであるとの考えに基づき、上記の基本理念を設定した。

<目標>

前頁以前に記載した調査により、現状・問題点等を左下図のとおり整理。
これに基づき、当市の地域公共交通を維持していくための基本目標を3つ設定。

現状・問題点	課題
上位・関連計画 <input type="checkbox"/> まちづくりと連携した持続可能なまちづくりの推進 <input type="checkbox"/> 公共交通の利用環境整備や利用促進	課題1 日常生活の足となる交通ネットワークの維持が必要 <input type="checkbox"/> 特に自家用車を利用できない学生や高齢者など、朝夕の通学・通院・買い物等日常生活に対応した公共交通の維持が必要。 <input type="checkbox"/> 悪天候時や朝タビーク時等、一時的に増加する需要への対応が必要。 <input type="checkbox"/> 日常生活のための東西基幹線の確保が必要。 <input type="checkbox"/> 既存の鉄道、市内路線バスだけではなく、地域の利用者数や移動需要に合った交通手段の導入が必要。
人口・流動 <input type="checkbox"/> 人口減少・少子高齢化は今後も続くと考えられ、公共交通利用者の減少や交通弱者の増加が懸念 <input type="checkbox"/> アジアを中心とした外国人の人口が近年大きく増加	
人流 <input type="checkbox"/> 苫小牧市は東西に長く、生活利便施設が点在 <input type="checkbox"/> 主要都市施設へのアクセスと東西方向の移動需要が多い	
周辺環境の変化 <input type="checkbox"/> 大規模な工場等の立地等により流動が変化 <input type="checkbox"/> 最新技術の活用や新規需要の獲得が期待	
市内路線バス <input type="checkbox"/> コロナ禍で大きく減少した利用者数が完全に回復していない <input type="checkbox"/> 担い手不足や行政負担の増加によりサービス水準低下が懸念 <input type="checkbox"/> 季節や時間帯によって需要が偏在	
デマンド交通 <input type="checkbox"/> 利用者の満足度は8～9割と高い <input type="checkbox"/> 現状は自家用車利用ができるため利用しない人が多いが、将来的な利用ニーズはある	
タクシー <input type="checkbox"/> 事業者数や台数が減少し、利便性の低下が懸念 <input type="checkbox"/> 運転手の高齢化が著しい	
鉄道 <input type="checkbox"/> 苫小牧駅の利用者数はコロナ禍で減少し、現在は回復傾向 <input type="checkbox"/> 日高線は事業改善に向けた取組を実施中	
フェリー・飛行機 <input type="checkbox"/> 一定の需要があり、飛行機は利用者増加が期待	
市民意向(アンケート) <input type="checkbox"/> 日常的な通勤・通学、通院、買い物の利便性向上ニーズが高い <input type="checkbox"/> 5,000円バスカード廃止による既存利用者の利便性低下 <input type="checkbox"/> 公共交通を利用したくなる取組の不足	
SWOT分析 <input type="checkbox"/> 強み(S) : 陸海空の交通手段、朝タビーク時に多い利用者 等 <input type="checkbox"/> 弱み(W) : 公共交通の利用者や担い手の減少、補助金の増加 等 <input type="checkbox"/> 機会(O) : 観光客や空港利用者の増加、DX技術の進歩 等 <input type="checkbox"/> 脅威(T) : 全国的な人口減少・少子高齢化 等	

当市における公共交通の課題

目標1:安心して住み続けるための公共交通の整備

- ① 通学・通院・買い物等日常生活のための公共交通サービスの維持
- ② ピーク時の需要に対応した快適な公共交通サービスの提供
- ③ 自動運転やAIオンデマンド交通等の導入
- ④ 自家用有償旅客運送の展開
- ⑤ 数量データに基づいた公共交通利用実態の分析と対応策の検討

目標2:地域で公共交通を守る体制構築

- ⑥ 公共交通の運転手確保に向けた交通事業者と行政・地域の連携強化
- ⑦ 公共交通の維持につながる施策に充てるための財源の確保
- ⑧ 市民の公共交通利用意識の醸成

目標3:誰もが利用しやすい公共交通の実現

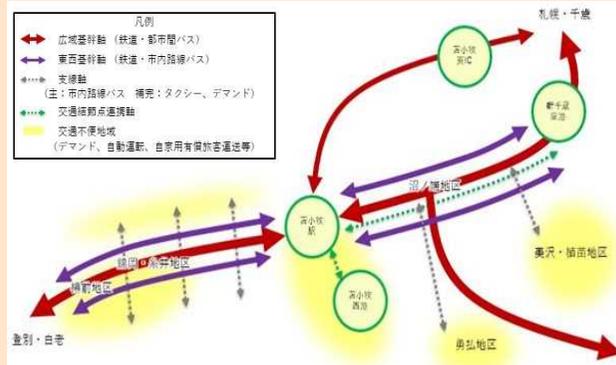
- ⑨ 年齢等に関わらず誰もが利用しやすい公共交通サービスの提供
- ⑩ 外国人を対象とした公共交通利用方法の提供
- ⑪ スムーズな決済サービスの提供

苫小牧市公共交通協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

<具体的な施策>

公共交通ネットワークの将来像を以下のとおり掲げ、16の施策をPDCAサイクルに従って実践。



将来ネットワーク図

将来ネットワーク像の実現に向けて16の施策と各評価指標を設定。PDCAサイクルに基づき計画の評価・改善を行いつつ、短期的にも各取組施策の準備・実行・評価・見直しを短いスパンで実施していく。



PDCAサイクル

3つの目標	16の施策
安心して住み続けるための公共交通の整備	①通学・通勤・買い物等日常生活のための公共交通サービスの維持 ②学生通学定期券購入に対する補助制度の検討 ③通勤・通学利用が多い東西幹線への通勤バス導入可能性調査 ④高齢者等タクシー・福祉タクシーによる代替移送手段確保の検討 ⑤新たなモビリティとして、自動運転車両導入の検討及び苫小牧地区でのAIオンデマンド交通の実証の検討 ⑥社会福祉協議会等と連携した、自家用旅客有償運送等の導入可能性調査 ⑦各種データを活用した本市における交通利用の実態把握と対応策の検討
地域で公共交通を守る体制	⑧会社説明会及び運転体験の開催 ⑨公共交通の運転手確保に向けた交通事業者と行政・地域の連携強化 ⑩公共交通の維持につながる施策の実施の展開 ⑪市民の公共交通利用意識の醸成 ⑫乗車券の普及
誰もが利用しやすい公共交通	⑬高齢者等に配慮したバス待合所の拡大及びバス待合環境の整備 ⑭車道のバリアフリー化の推進 ⑮外国人を対象とした公共交通利用方法の提供の検討 ⑯キャッシュレス決済の導入検討

施策体系図

目標1に対応した評価			
評価項目	現状値	目標値	評価方法
市内公共交通 (鉄道、バス、デマンド交通) の市民満足度	4.6% (R7)	5.0% (R11)	市民アンケートを実施
市内路線バスへの給付補助額	106,380千円 (R6)	107,736千円 (R11)	本市の市内路線バス補助金額を使用
市内路線バスの収支率	65% (R6)	68% (R11)	市内バス事業者提供資料を使用
③ 目標2に対応した評価指標			
市内公共交通 (バス、タクシー) に係る運転手数	バス: 78人 (R7), タクシー: 247人 (R7)	バス: 82人 (R11), タクシー: 247人 (R11)	市内バス事業者提供資料を使用 苫小牧ハイヤー協会提供資料を使用
市内の駅名を冠した交通機関数	7箇所 (R7)	R11まで20箇所以上 (R11)	本市の公共交通担当部署への確認
鉄道利用促進を目的としたイベント実施回数	4回 (R7)	R11まで12回以上 (R11)	本市の公共交通担当部署への確認
乗り方教室の開催回数	2回/年 (R7)	R11まで12回/年 (R11)	本市の公共交通担当部署への確認

評価指標

●事業実施の適切性

計画どおり適切に事業は実施された。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・事業は、計画どおり実施されている。
- ・地域公共交通計画改定での調査として、将来人口カバーエリア・カバー率等のデータ活用やデマンド交通実証運行等による計画策定にむけた検討が行われ、また、状況の変化に対して多様な関係者からの意見も参考に調査結果をまとめることは大変だと思いが、今後も引き続き事業の完了に向けて取り組んでいただくとともに、調査から得られた課題等を反映した地域公共交通計画をぜひ策定いただきたい。